

窒息・誤飲した時の応急手当

乳幼児は、大人が思いもよらないものを口にします。食べ物や玩具などをのどに詰まらせて窒息する危険があります。また、誤飲したものによっては重大な症状をひきおこすことがあります。

吐き出させた方がよい場合と無理に吐かせない方がよい場合がありますので、処置がわからない場合はかかりつけの医師や「中毒 110 番」にご相談ください。対応については以下をご参照ください。

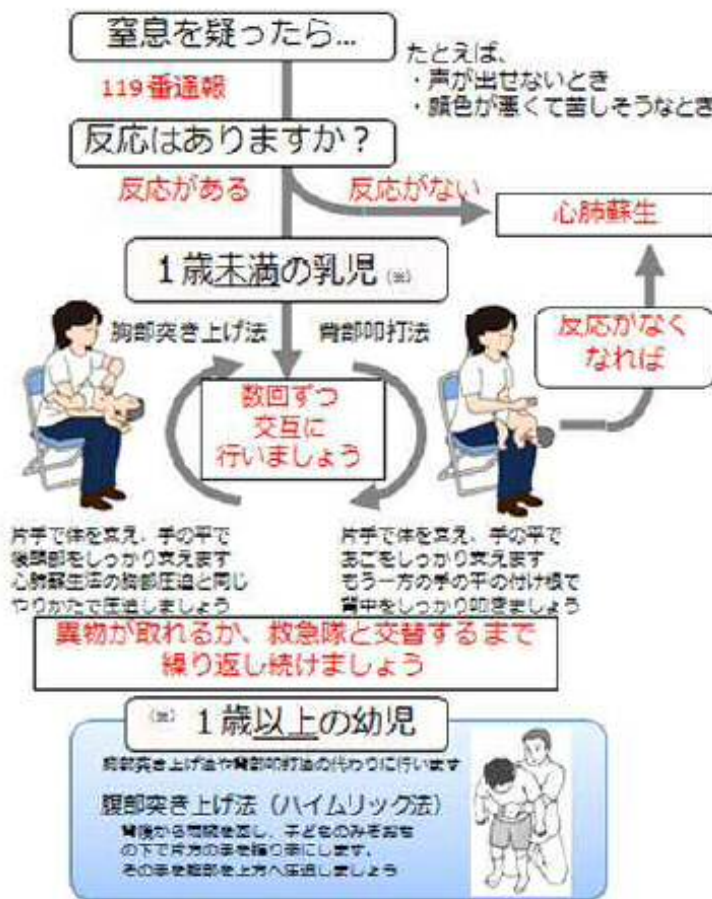
1. ものがのどにつまった時の応急処置（母子健康手帳より引用）

乳幼児は、大人が思いもよらないものを口にします。食べ物や玩具等がのどに詰まると、窒息する危険があります。

周囲の大人が、普段から乳幼児ののどに詰まりやすい大きさ（トイレットペーパーの芯程度）を知り、食べ物や玩具の取り扱いに関する注意書きをよく確認するとともに、すぐに対処できるように、応急手当について知っておく必要があります。

※ 口の中に指を入れて取り出そうとすると、異物がさらに奥へ進んでしまうことがあります。

【ものがのどにつまった時の応急処置】



(監修)

日本小児救急医学会、日本救急医療財団心肺蘇生法委員会

2. 電話相談 『中毒 110 番』 < (公財) 日本中毒センター >

- 大阪 : 072-727-2499 (365日 24時間対応)
- つくば : 029-852-9999 (365日 9:00~21:00 対応)
- たばこ専用電話 : 072-726-9922 (365日 24時間対応・テープでの情報提供)